（郵信省認可）　（本號六面）　明治二十二年九月二十日　（定價金二錢）

# 時事新報

時事新報は日本國中唯一の毎日刊行新聞紙なり

第二千四百十八號　金曜日
明治廿二年九月二十日
舊暦巳丑八月廿六日（己亥）
日出午前五時二十八分　入午後五時四十分
月出午前零時十九分　入午後三時二十九分
滿潮午前零時二十九分　午後一時十三分
（西暦一千八百八十九年）

時事新報定價
時事新報へ一年三百六十五日一日モ休刊セズ其代價遞送料廣告料ハ左ノ如シ
一枚二錢〇一箇月前金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三圓〇一箇年前金六圓
〇時事新報社ヨリ直接ニ郵便ニテ遞送スルモノニ限リ右賃價ノ外ニ一箇月二十六錢ノ郵送料ヲ申受ク

時事新報廣告料前金

| 一行ニ付 | 一行ニ付 | 一日限 | 二日以上六日迄 | 七日以上 |
|---|---|---|---|---|
| 一行ニ付 | 十二錢 | 十一錢 | 十錢五厘 | |

一行ニ付五號活字廿四字詰

月曜日幷に大祭祝日の翌日等他新聞紙の休刊日ハ限り時事新報配達の求めに應ず此場合には新報代價一箇月前金八錢にして地方ハ郵送する分は此外ハ貼用する郵便印紙の代價を申受く可し

來る十月一日より新聞紙の遞送稅半減して一號に付五厘となりたるに付同日以後時事新報社は新報の郵送料として一箇月前金十五錢を申受る事に改定せり由て爾後郵便配達に附す可き地方にても一箇月前金六十五錢ハて新報の購讀相時候又十月一日以後の前金既に拂込相成居候分は前配の割合を以て換算し前金の期日を繰越可申候

## 時事新報

此一篇は近着の英國刊行倫敦經濟雜誌より抄譯したるものなり

### 鑛業投機の成行

本年々初の三箇月間に於て株式社會の一大異相たりし鑛山株投機の勢も近來非常ハ衰頽の色を現はしたり是より先き本年一月より四月までの間は彼の鑛買占の熱度恰も頂上ハ達したる時にして隨て南亞非利加おるウヰットオータースランド金山株の賣買に狂熱を催はし價は蹴一蹴して非常の極點に騰りたるに付き會社創立者は其勢に乘じ一時に莫大の資本を募りて四方の鑛業に注込ひの有樣なりしが折しも銅買占失敗の一件より事體全く一變し銅山株劵下落の風潮は大陸及び此國に於ける當業者を促して一般に所有の鑛山株を賣却するに至らしめその餘勢遂にキンバーレー及びケープ タウンに於ける南亞非利加金山の株劵ハ及び就中ウヰットオータースランド地方の中心たるヨハンネスブルグ金山の株の如きは同地方の各銀行が相結んで投機者に對する貸出に檢束を加へたるが爲め殊に一層の下落を現はしたり蓋し銅山及び金山株の膨脹甚ざしき最中には他の諸鑛業の株は別ハ影響を被ふる事なかりしかども一度下落の端を開くや其勢次第に波及して二三の場合の外、投機商賣は全く廢滅同樣の姿に立至り南亞金山の株劵中間々好景氣を現はすものなきにあらざれども平均の價格は三四月前に較ぶれば非常の低下ハして毎年ハの季節には常に活潑の有樣を呈する鑛業の株劵も本年ハ限り全くの取引なく或は殆に景氣回復の望を抱て持株へつゝわりし者も秋季の間は毎年取引皆無となるの例なれば今より數月の間は最早見込なしとて拔ハ全く其望を絶ち前途遼遠なる回復の機を待て株劵と共倒れせんよりは寧ろ損亡を犯して賣放さんとするの氣勢を生じたれば斯る場合の常として仲買人は取引の直段を痛く引下げたり讀者もし此變幻錯綜したる事情の結果を知らんと欲せば過往三箇月間に於ける鑛山當業者の狀態如何を見て之を知る可し彼の會社創立者の輩は常に時機を察するに敏捷なるが故に今日の如く鑛業株の景氣甚た宜しからざる時ハ際し更に新事業を企つるの愚計たるを悟りて今は全く其手を引き投機社會の風潮の再び順正に復す可きの期を待ち居れり

回顧すれば一昨年中に創立ゑたる會社は八十九ハして株金總額一千六百萬三千磅（一磅は金貨五圓）の募集あり又昨年中ハ百一個の新會社起り株金總額一千四百二十七萬二千磅ハ達せしが本年々初の四箇月間に於ては既に三月の末までハ新會社五十三の設立ありて其金額は總計七百五十八萬四千磅の多きを見るに至りたれば此の割合あらば必ず前年度に超過する事ならんと思はれたるに其後今日までの處にては會社の數は六十三に增し株金の額は八百八十九萬四千磅ハ達したるハ過ぎず而して此秋季後ハあらざれば景氣回復の望あらざるが故に本年の計數は迚も前年度に比較す可らざる見込なりと云ふ蓋し本年發起したる新會社の大半は何れも南亞の金山を目的としたるものにて其重なる場所はウヰットオーターランド及びスワゼーランド地方に在り此地方ハては土地の人々の發起したる一二の小會社が非常の利を占めたりとの事ハよりして大に世人をして僅ら夢の網なる千金一攫の慾念を生せしめたるハり第二の目的は印度及び其他の殖民地なれども會社の數は僅々ハして前者と比較す可くもあらず又其次は海峽殖民地、北米合衆國、亞非利加なる葡萄牙殖民地、コロンビヤ共和國、ボンドーランド、ホンドラス及び其他の諸國ありとす而して右各地の區別は本年の上半期間ハ其定數を世間ハ廣告したる會社の數及び其資本額を示したる左の表に就て見る可し

| 位地 | 會社の數 | 資本額（磅） |
|---|---|---|
| 南亞非利加 | 三二 | 四、二五五、〇〇〇 |
| 印度及殖民地 | 五 | 九七〇、〇〇〇 |
| 海峽殖民地 | 四 | 六七〇、〇〇〇 |
| 合衆國 | 五 | 六一〇、〇〇〇 |
| 其他諸國 | 一七 | 二、三八九、〇〇〇 |
| 合計 | 六三 | 八、九四、〇〇〇 |

是迚猶は五六の鐵鑛會社あれども是等は何れも舊會社の組織替をおしたるものハ過ぎず精密なる統計を得ざるが故に以上の計數は甚た確かなりと斷言する能はざれども此上半期間に創立されたる新會社の株金額は殆んど一千磅にして其百分の七十五だけは拂込をおしたるものありと云ふて敢て大差なかる可し今二三の會社に就て之を例するに總株金の四分の三は器械家屋等の如き財產買入の爲め正金或は株劵を以て拂込み總額の百分の二十五を營業費として剩し置く事なり然るハ今日の慣行に於ては會社の豫算上その營業費を非常に少なく見積り置きて創立の際に成る可く多額の拂込をなさしめ營業の後に至り支出の道に差支ふるときは投機の慣手段として忽ち會社の組織替に着手し而かも之を再三するを以て常とせり其二三のものを指名すればエムマヅフラグスタッフ、エバルヘッヅ、及びフラッタなど云ふ如き會社は創立以來一片の利益配當をもなさゞるのみか損失に損失を重ぬると雖も其名稱は依然として消滅するみとなし現に倫敦株式取引所ハ於て其株劵の賣買ある鑛業會社の數は數百に下らざれども昨年中利益の配當をおしたるは僅々四十に過ぎず今其著るしきものを擧ればクインスランドの鑛業會社は其數二十八ありて株金額は總計五百萬に達すれども配當をおすものは七個、印度の會社は四十餘にして金額は四百五十萬なるが配當をおすものは從來纖に二個のみ而して英米鑛業會社の如きも株主ハ對し多少の配當をおすものは五指を屈するに過ぎずと云ふ以上所述の事情より見れば近年來鑛山株投機の非常に流行するハ頗る怪しむ可きが如くなれども其原因は取も直さず殖產興業の進歩より富の大に增加したるが爲めなりと云はざるを得ず然り而して鑛業なるものは元來富饒同樣のものハして而も其鑛數は非常に多く當り數は至て少おきの理由も以上の所述ハ依て明白ならんのみ

## 雜報

○北海道鐵道　北海道鐵道敷設の目的は唯炭山の開抗に便利を與ふるのみおらず同道の運送を便利にして開墾事業を奬勵するハ在りて孫て本紙上ハも記したるが如く政府よりも特ハ之に對し五朱の保證を爲すみとに内定し居る由おるが尙ほ同社の株式一萬株即ち金五十萬圓を此度帝室御財產ハ充るとにも内決したりと云ふ

○銅の氣配　先頃佛國の銅買占組合の瓦解したるより我邦に於ては一旦逆地丁銅百斤に付代價二十七圓内外迄上騰し居たるものが遽に十圓有餘の下落を來して十六圓計に落付き昨今ハ少しく上りて十七圓以上に及びたるが近頃英國市場に於ても漸々上向きの氣配を顯はし來るに依り我銅山主も稍や愁眉を開くに至りたりと尤も先程大藏省より右の時節柄にも拘はらず多量の銅を拂下げたるには銅商一般ハたもや大影響を生ずるかと深く心痛する處なりしが幸に大坂の豪商等が悉く之れを拂下げて可成く賣出を控へたれば別に價格上に變動を示さずして止みたりしなりと云ふ

○生絲の賣行宜し　横濱の絲況は先きハ甲九十番の買込みありて一日一千梱の手合ありし後又々沈靜となり先づ白眼合の姿ハて在荷は較や輻輳して一萬梱以上ハ達したる折柄彼の大風雨にて内外の電信全く不通となり入荷手合共に薄かりしが追々電信も通ズて注文筋の入電ありしと見え此の程より外商は頓に買氣を示し十六十七の兩日中に殆んど二千梱に近き大手合ありて價格も從て引締りの模樣にて先づ四五枚方上騰の氣配と申すべくして賣行き宜しく一昨日も可なりの手合ありしとあり元來本年は新絲の初めより可なりの賣行きハて今日までの手合高は昨年の今頃よりも餘程超過し居る由にて又在荷は昨年九月一日には一萬四千三百一梱なりしも本月六日は一萬百十六梱にして大略三千二百梱の減少あり其後前述の新手合も出來、入荷劃合に僅少なれば目下は八千梱前後の在荷なるべく殊ハ本年は養蠶製作の見込みなりしも春蠶は風雨の爲め中途より作柄を落し夏秋兩蠶共に不作の模樣なれば最初の豫想に反して今は寧ろ凶の字を附すべき作柄とあり全國一般の產出高は平年より餘程減少し地方の在荷餘り多からざるに付ては若し此絲況にて賣行かば本年末に餘す所の在荷は減に少おかるべしとなり

○大坂市の教育費　教育費中高等小學校以下幼稚園の經費は大坂全體共業となすべきやハ其名て去る七日より其派に分れて容易に三輪長兵衛氏議長を述べ夫より二三反覆するハ過ぎざれども其著るしきものハ

○故西鄉翁の祭典　氏の十三年祭を鹿ハ於ても同日芝公黒田伯を始め在京

○泉州紡績會社設番邸遊酒家肥塚甲金五十萬圓ハて同績會社を設立し專二萬を運轉する見にて持切り殘り集する筈にて夫よし

○兩毛鐵道臨時總脇備二郎氏外六十求し役員の改撰を其の改撰をおすもある由にて右協せし人もありて終て臨時總會は廢止

○被害人民の不平正午頃大坂府西成民二十名が打揃ふ物に蓋き將ハ饑餓なきは如何おる理毎日三度の手當を腹の不平を並へ込おりしより都東を下附すべき旨報りと又京都府下乙日の出水に水害をゑあらざるも其後して右切所の修繕堤防又々潰決せし手當をおすべしとを憤り久我村ハは二三十名嶽山の出張して一ハ先の紊振心得難しと村の役場を取囲み警吏等續々出張し事なく解散したり

○海軍省の表門　修繕中ハ當分の れりと

○貴書生の狼狽　最も甚しきハ三軒の勢なれば下宿人書生の周章狼狽と